



仙台―出雲線の初便が仙台空港に到着し、放水アーチにより歓迎（4月20日）。使用機材には「社の都」仙台にちなんだグリーン色の機体が投入された。

仙台―出雲線は、最初は観光を軸とした交流のお手伝いをするつもりになると思っていましたが、さまざまな用途でご利用いただき、人と人との交流を生み出す源になってほしいと思っています。地方都市の交流人口を増やすことは、私たちが最も実現したいことでもありますので、仙台―出雲便を、多くの方にご利用いただきたいですね。

仙台空港の「にぎわい創出」の1助

仙台空港は、昨年の7月に国管理の空港として国内第1号となる民営化を果たしました。仙台空港に対して、今後、どのようなことを期待しますか。また、地方のさらなる交流人口の拡大に向けて、お考えがあればお聞かせください。

ださ。民営化されたことで空港がにぎやかになるのは、私たちにとって、とてもありがたいことです。空港自体がさまざまな機能を持ち、お客さまを集めるための魅力を高めていくというところに期待しています。

羽田空港が良い例ですが、「飛行場に遊びに行こう」という環境ができると、とても良いのではないかと思います。当社の航空機は12機ありますが、機体の色がすべて異なっています。地域はいろいろな文化を持ち、さまざまな彩りがある。それを結ぶ飛行機も、彩り豊かであるべきだということで、設立当初から、当社の機体の色は「マルチカラー」がコンセプトなのです。「この路線ではこの色の機材を飛ばす」という決まりはありませんので、お客さまは、ご自身がどの色の飛行機に乗るか、直前まで分かりません。これを利用して、「自分は何色の飛行機に乗れるのか」といった「機体の色あてクイズ」などに使っていたら、仙台空港への注目度も上がりますし、お客さまの楽しみも増えるのではないのでしょうか。

また、当社では、就航している地域の行政や経済団体の方々と一緒に、例えば愛知県の方々と、青森や岩手にお伺いして、愛知県の魅力を知っていただくためのプロモーションを行っています。やはり、地元の人が直接訪問してお話をいただくのが最も興味を持っていただくコツだと思いますので、こうした一体的な取り組みは良い方法

【概要】
株式会社フジドリームエアラインズ
 代表者：代表取締役会長 鈴木 与平
 代表取締役社長 三輪 徳泰
 設立：平成20年6月24日
 事業内容：航空運送業
 資本金：4.9億円
 株主：鈴木株式会社 100%
 就航：平成21年7月23日
 所在地：静岡市清水区入船町11-1
 TEL：054-355-5600（代表）
 ホームページ（座席予約案内）：<https://www.fujidream.co.jp>

やがて生まれ来る子供たちのために。

宇宙のオアシス『地球』。ただひとつの、この青い星を守って行かなくてはなりません。大切な人のために、そしてやがて生まれ来る子供たちのために。私たちは、よりよい環境をめざし、考えつづけます。

AOBA 青葉環境保全

より良い環境をめざす
 本社/仙台市若林区蒲町19-1 電話(022)286-3161(代)

クローズアップインタビュー

地方都市を結ぶ エアラインとして、多彩な文化交流のお役に立ちたいと思います。



株式会社フジドリームエアラインズ
 代表取締役社長
 みわ よしひろ
三輪 徳泰 氏
 プロフィール
 昭和21年9月17日生まれ。神奈川県出身。血液型B型。慶応義塾大学を卒業後、兼松株に入社。航空機部部長などを経て、平成16年6月代表取締役社長に就任。取締役退任後はグループ企業の顧問を務め、退任後に鈴木と株に入社、平成28年6月より現職。「当社の現会長である鈴木と平は、大学時代に所属していたグライダー部の大先輩なんです。初めて空を飛んだ時の上空から景色を見下ろす新鮮な感覚は今も覚えています。好きな言葉を何うと「徳川家康の『人の一生は重き荷を負うて遠き道を行くが如し』という、有名な言葉でしょうか。年を重ねたせいか、今、とても心に響きます」と話す。

地方都市を結んで 交流を活発に

「この春、仙台―出雲線を開設されました。はじめに、その経緯をお聞かせください。」

これまで、東北には、花巻、山形、青森空港の3路線を就航しており、仙台空港は4路線目となります。以前から東北の玄関口である仙台空港には注目しておりまして、3月に当社として12機目となる機材を導入することが決まったのを機に、本腰を入れて検討を始めたという経緯があります。

就航先を検討するにあたっては、私どもが現在結んでおります名古屋（小牧）―出雲線を参考にしました。この路線は大変好調でして、当初は仙台―出雲線と同様1日1便だったものを、1年足らずで1日2便に増便しました。出雲大社は縁結びの神様として有名です。比較的、若い女性のお客さまも多く、おかげさまで増便後も順調に推移しています。縁結びの御利益にあやかっ、仙台―出雲線も、そうなるってほしいと期待しています。

「人」の力で 地域の魅力を伝える

「今回の定期便就航は、地域間交流という点で、どのような効果を生むと思われませんか。」

私どもは「地参地翔（地域の営みにではないかと感じています。私たちの仕事は他の地域からお客さまを運んでくる、あるいはこちらからお運びするということですが、それ以外のさまざまな面でもお手伝いさせていただきたいと思っています。」

「最後に、今後の取り組みについてお聞かせください。」

まず、仙台―出雲線を成功させることを一番に考え、この成功をもって次のことが考えられるのではないかと考えています。そのためには、仙台・宮城での当社の認知度向上や就航路線のPRを、行政や地元団体の方々と連携しながら実施していきたいと思っています。会員の皆さまも、仙台―出雲線をぜひご利用ください。

参加し、地域間を翔けめぐる」を経営理念に掲げ、現在全国16都市に就航しています。日本各地には多彩な文化がありますので、会社設立当初から一貫して、地方のお役に立つエアラインになろうと、都市をつないでまいりました。

これまでは、仙台から出雲へ行くとなると、一度、東京や大阪まで行き、そこから出雲に向かうという形でした。4時間半はかかる道のりです。特に高齢の方などは乗り継ぎも面倒だったのではないのでしょうか。これが、これからは真つすぐに、90分で行くことができますので、流動人口を増やすという効果は、大きいものと思います。

実は既に、島根側からの「東北地方を訪問してみたい」という強い思いを感じたところでもあります。と言いますのも、出雲と仙台は都市の規模が大きく異なりますので、どうしても、仙台発の便にはお客さまがたくさんお乗りになって、出雲サイドからは少ないのではないかと危惧しておりました。しかし、就航前からの予約状況を見ておりまして、出雲からのお客さまが予想よりも多く、これはとてもうれしく思っているところです。

また、私どもの路線は、地域によってはビジネス路線として重宝されている例もあります。例えば、花巻―名古屋（小牧）は、一見、観光路線のようにも思われますが、花巻近郊にはトヨタ自動車関連の企業がありますので、トヨタ自動車がある名古屋との行き来にも多数ご利用いただいています。